

高校生のインターンシップ（政治と政治家・議員）概要

町田市議会議員 吉田つとむ

2025. 11. 13

6、議会の構成と会議の在り方

1. 会議と役職について
2. 議会の会派について
3. 会議の慣例とルールについて
4. 会議の公開性とその記録の公開

6、議会の構成と会議の在り方

グーグル AI による概要に加筆

議会は、国会と地方自治体議会があります。選挙で選ばれた国会議員が集まり、法律や予算の決定、政府の監視を行う機関です。

具体的に 地方議会は、地域住民の代表として、地域の課題について話し合い、予算や条例を決定します。そして、議会で決定されたことをもとに、知事や市長といった執行機関が行政を実際に行います。

以下、主要には地方議会について、説明します。

1. 会議と役職について

グーグル AI による概要に加筆

議会の公式会議とは、議員が全員または一部が集まり、市の運営や条例などについて審議・決定を行う場です。代表的な会議には、全議員が集まる本会議と、特定の分野を専門的に審査する委員会（常任委員会と特別委員会）があります。その他、議会の円滑な運営を話し合う議会運営委員会があります。そのほかに、全員協議会という会議がありますが、その位置づけは議会ごとによりかなり相違があるようです。

AI による概要に加筆

議会の主な役職には、議会の代表者である議長と副議長、そして委員会正副委員長があります。これらは、議員の中から選挙（委員会では互選もある、指名推薦もある）によって選ばれます。議長は会議の運営を主導し、副議長は議長が不在の場合にその職務を代行します。全議員は、いずれかの常任委員会に所属し、選抜された一部の議員は、議会運営委員会、特別委員会などに所属し、それぞれの専門分野で議案を審査します。 議会運営委員会は、議案の審査以外に本会議の運営などについても協議します。ある意味で、議会運営委員会は議会運営の根幹にかかわる存在です

2. 議会の会派について

AI による概要に加筆

議会会派とは、政治上の主義や政策などを同じくする議員が集まり、議会活動を共に行う

ための団体です。会派は政党とは異なり、複数の政党の議員や無所属の議員が所属することもあります。

ちなみに、町田市議会における会派では、最大会派は「まちだ市民クラブ」（旧民主党系議員が主体で構成する、自民党議員は、町田市議会では2派に分かれている。大半の時期で分かれてきた歴史がある。

吉田つとむは市議会の在籍前半は自民党公認であり、大半、派閥抗争の中にあった。経験的には、合流した時代の方が内部でいびつであった。

会派を結成することで、委員会での発言時間の割り当てや、議会運営における発言力、さらには政策立案や政策提言などの活動を円滑に進めることが目的となります。正副議長を除いた役職は、会派所属議員数に基づき会派の希望に即して配分される。これは以下の会議の慣例で説明します。

会派の内部運営は基本的にシークレットになっています。それぞれの会派には、会派代表者（あるいは幹事長と称する）が重要な役割を担っている。また、都議会などでは政調会長が存在し、政策施策分野で重要な役割を果たしている。

会派には、政務活動費が支出されているため、その収入支出の会計を管理する会計担当者があります。政務活動費が支出に関する使途の是非が厳しく問われる時代に、会計担当者の役割が重視されます。

3. 会議の慣例とルールについて

会議の運営については、条例や規則がそのルールの基本になっています。他方で、会議運営では、慣例が重要な役割を果たしています。その理由は、会議運営は微細な問題を抱えるケースが多々あり、慣例が重要な役割を果たしており、議長や委員長の議事運営において、慣例を無視した行動や発言は原則的になく、そのことをもって、全員が議長や委員長の決定に支持を与える根拠が生じていると考えられます。

円滑な会議運営には、議長や委員長が会議の慣例に精通していることが重要であり、議会事務局の知識と経験も重要な役割を果たすべきものと考えてきました。

今期の国会を参考に見ると、会議運営の基礎ができていない議員がありました。例えば、会議運営の優先順位がどうなっているかの基本を知らずに議員が発言しているようでした。

4. 会議の公開性とその記録の公開

議会は一般住民（市民）が選んだ代表者（議員）の集まりである存在です。

一般住民（市民）が選んだ代表者（議員）がどのような態度が取っているか、発言をしているか、知ることは極めて重要なことであり、そのために、会議（発言）の記録が議事録として作成され、一般に公開されています。小規模自治体では要点筆記の議会もあると聞きますが、町田市議会は、本会議も委員会も全文記載です。

また、その議事録もネットで公開されていますが、それは、私が2期生の当時、議会改革

特別委員会で、議会のホームページを作り、議事録をネットで公開することを決めました。その時の争点は、発表様式を整理した上で議事録を公開すべきと言う案と、とありあえず形式は問わず早期に議事録を公開すべきと言う案にわかりました。私がメンバーでもあった自由民主党会派の委員は後者（早期ネット公開）でしたが、多数決で早期に議事録を公開すべきと言う案が通りました。こうした経緯もあって、町田市においては、ホームページを持ったのは、一部の議員が先行し、次いで議会がホームページを持ち、その後、行政がホームページを作成する順になりました。

現在の議会議事録のネット公開は、検索機能を充実したタイプにレベルアップしています。

映像発信も、町田市においては議会が行政に先行しました。私が2期生の当時に、議会の映像放映を提唱しましたが、多数に無勢で敗退しました。その後、インターネット中継方式（日本で最初に導入したのは、富山県魚津市であることを発見し、紹介）を提唱しました。さらに、議会運営委員長時代にオンデマンド方式の議会中継（先行事例、北海道室蘭市議会を紹介）を提起し、本会議のオンデマンドネット中継を実現することに致しました。

さらに本庁舎移転を期に、委員会のオンデマンドネット中継を行うことを決めましたが、それは今に利用されている内容となっています。

この本庁舎移転では、議事の採決結果を各議員ごとに明示することになり、ホームページや議会たよりも各議員ごとの内訳を公開しており、市民の判断に供しています。